

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.260

■ 自動車工学関連講座（中堅技術者向け Web セミナー）
第4回「ムダ取り入門！ムダに気付く発想法～人・方法編～」（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様から希望の多い中堅社員向け社内教育として、汎用的なテーマを取り上げ、自動車工学関連講座の一環として中堅技術者向け Web セミナーを開催しています。

本年度も、多くの社員の皆さんが自社内で受講できる機会を企業力アップにご活用いただくため、カイゼンベース社を講師に、昨年度から内容も見直し、6回連続の Web セミナーとして順次実施しています。

今回は、その第4回目として「ムダ取り入門！ムダに気付く発想法～人・方法編～」を開催しました。

■ 日 時：令和6年9月12日（木）13時30分～15時30分

■ 場 所：Web形式

■ 参加者：70社／523名

KAIZEN BASE
ムダ取り入門！ムダに気付く発想法～人・方法編～
第1章：ムダとは何か？ムダ取りの必要性

ものづくりコンサルタント
カイ先生
アシスタント
あおいさん

本講座の構成
第1章：ムダとは何か？ムダ取りの必要性
第2章：ムダ取りフレームワーク～作業環境～
第3章：ムダ取りフレームワーク～作業動作～
第4章：ムダ取りフレームワーク～仕組み～

第1章：ムダとは何か？ムダ取りの必要性
1. ムダとは

顧客の視点
顧客にとって価値のある作業
顧客にとって価値のない作業

付加価値
顧客視点のムダ
明らかムダ

自分達の視点
自分達にとって必要な作業
自分達にとって必要のない作業

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構
2024年度カイゼンベースWEBセミナー
ムダ取り入門！ムダに気付く発想法
～人・方法編～

第1章：ムダとは何か？ムダ取りの必要性
2. ムダ取りはなぜ必要なのか

利益
（お客様から頂いたお金）
販売金額＝売上
（お客様から頂いたお金）

総原価
（造って売るのに掛かったお金）
営業外費用
販売費
売るのに掛かったお金
製造原価
造るのに掛かったお金
直接労務費

どうすれば利益は増える？
ムダを取り、労務費・材料費・経費を削減し、利益を増やす！

電気代、ガス代のお金
造るための材料に掛かるお金
造る人に掛かるお金

第2章：ムダ取りフレームワーク～作業環境～
4. 3M（ダラリ）から

ムダ
Muri
Mura

3M（ダラリ）

Man：技能のバラツキ
Material：材料のバラツキ
Machine：設備のバラツキ
Method：手順のバラツキ
Environment：仕事量のバラツキ

早過ぎる
重過ぎる
難過ぎる
遅過ぎる
多過ぎる
高過ぎる
低過ぎる
etc.

【参加者の声】

- ・ムダの定義が再確認できた。製造原価とムダのイメージ図が、シンプルでわかりやすいと感じた。手作業のムダの12の例図がわかりやすいと感じた。
- ・ムダ取りの基本的なことからムダを無くしていくにはどうしたらいいのか、学ぶことができて良かった。
- ・社内にムダがあることは分かっていたものの、何から手を付けるかがわかりやすく説明していただいた。
- ・今まで何となく「ムダ取り」という曖昧な捉え方をしていたが、本セミナーを聴講し、具体的なムダ、ムダ取り方法を知ることができたことは大変有益だった。
- ・ムダの定義、考え方を改めて気付くセミナーだった。また、知らなかった用語・考え方もあり、日頃の不満からムダに気付く、作業レーティング値の基準、最適作業領域（頭を動かさない）、ECRSの原則等が勉強になった。
- ・付加価値が付いているもの以外のすべては、作業における「ムダ」になっていることが理解できた。その「ムダ」を減らすことで、会社にとっての利益につながる。作業の「ムリ・ムラ」をなくすことで「ムダ」を減らすことができることが理解できた。適正な作業速度（レーティング）で作業を行うことでヒューマンエラーを防止できる。
- ・日々の業務を改善したいと考えているが、モグラたたき式に、問題を潰していくことが多く、それ自体がムダなことも多く、今回、体系的に「ムダ」について学ぶことができ、効率的に改善を進めるヒントをいただくことができた。
- ・普段何気なく行っている作業の中にも、ムリやムダが無いかの確認を追及することの重要性、ECRSの原則を念頭に置き、カイゼンを行い原価低減を目指して行きたい。
- ・自身の業務の中に改善活動があるため、効果確認の指標として作業レーティングの計測等大変参考になった。
- ・普段からムダを意識し改善に取り組む、それを指導する立場にあるが、改めてムダの定義や要因を理解し、ソレに気づき削減に繋げて行くためのポイントをわかりやすく説明いただいた。ムダに気付かせる、改善を意識した業務に取り組んでいけるように、不満や気付きのキャッチアップを心がけ、環境や仕組みの観点から全体最適に取り組んで行きたい。
- ・これまでムダ作業を排除してきたが、付随作業には未だ着手できていない。お客様目線で価値があるかどうかを見定め、改善していきたい。
- ・もともと「3M(ダラリ)」は理解しているつもりでいたが、改めて詳細説明を聞くことにより基礎がわかり、身の回りでのムダがたくさん見えてきた。
- ・人の動きや物の位置などによって生じるムダについて改めて考え、気付かされる機会になった。意識を変えれば、日常業務の小さなことからでもすぐに活かして、効率を上げることができそうだった。
- ・ムダにも様々な要因があることがわかり、ムダと付随作業の分類を知ることができた。作業動作にも最適範囲を再認知できたので、今実施している工程設計に役立てたい。
- ・無駄というのは顧客目線で価値の判断をしなくてはならないことを実感した。フレームワークなど今後参考にさせていただきたい。
- ・付加価値を得られないことがムダという定義が斬新だった。最適作業領域、3M、ECRSなど新たな知識を得られた。現場での改善において、どう取り組むかの考え方、基礎知識を学ぶことができ、今後の改善への視点を増やせると思った。
- ・レーティングによる作業適正時間の計測方法やラインバランス効率の計算方法等、知識としてすごく為になった。